

平成23年12月

遠藤雅之 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和

副主査 池 口 正 英

同 小 川 敏 英

主論文

Development of a new hanging-type esophageal stent for preventing migration: A preliminary study in an animal model of esophagotracheal fistula

(逸脱防止機構付き吊り下げ型食道ステントの開発：食道気管瘻動物モデルを用いた基礎実験)

(著者：遠藤雅之、神納敏夫、大内泰文、杉浦公彦、矢田晋作、足立憲、河合剛、高杉昌平、山本修一、松本顕佑、橋本政幸、井隼孝司、小川敏英)

平成23年 Cardiovascular and Interventional Radiology 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究では糸付き吊り下げ型食道ステントを開発し、この糸を経皮経食道ルートより頸部皮下へ誘導し固定することで食道の遠位側へのステント逸脱を防ぐ方法を考案した。気管食道瘻を作成した豚を用いた基礎実験において、糸付き吊り下げ型食道ステント留置は安全かつ容易に施行可能であり、経過観察で瘻孔治癒も確認され臨床応用可能な方法であることが示された。本論文の内容は、種々の原因で生じる難治性の食道気管瘻の治療分野で、本法が極めて有用な治療手段であることを示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。